

こころ

県P連だより

編集 徳島市北田宮1丁目8-68
発行 〒770-0003 ☎088-633-1105
徳島県PTA連合会

ホームページ

<http://www.tokukenpta.com/>

あいさつ



平素は、徳島県PTA連合会の活動に際し、ご理解・ご協力をいただき心より感謝申し上げます。

会長 佐藤 央一

を持って引き受けている方や、ご自身の意思とは異なる形で関わっている方もいらっしゃると思います。

近年、グローバル化の進展や少子高齢化、技術革新が加速し、社会全体が予測困難な状況に直面しています。PTA活動もまた、こうした変化の中で持続可能な活動を模索していく必要があると思えます。そのためには、多くの仲間とつながりながら、地域課題への対応や挑戦を進めていくことが大切ではないでしょうか。そのようなPTA活動が、こどもたちの健やかな成長を応援できることへつながっていると考えています。しかし、PTA活動への参加については、「役員のなり手がいない」「活動が形式化している」「負担が偏る」などの声を聞くことや、義務感

県P連総会

本年度の定期総会は六月二日(日)県教育会館において、新型コロナウイルス感染症の感

当連合会としまして、これからのPTA活動に必要なものは「柔軟な発想」と「多様な関わり方」と考え、できるところから活動の見直しの取り組みなどを行なっているところです。会員の皆さまにおかれましても、地域でのPTA活動を「自分育ち」や「居場所作り」、さらには「わが子や学校との距離を縮めるツール」として前向きに捉えていただき、より良い関わり、つながり方を見つけていただけたらと考えています。当連合会は、会員の皆さまが少しでも前向きに捉えていただけるお手伝いをこれからもしていければと考えています。

今後ともより一層のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

防止対策を取りながら県教育委員会生涯学習課より 新開弓子課長様、吉田郁夫指導主事様、県中学校校長会会長代理 西山伸二様、県小学校校長会会長

井上圭三様を来賓に迎え開催しました。

県P連役員・郡市代議員・受賞者の方々の出席のもと、令和六年度定期総会が開催されました。

先田仁美会長のあいさつに続き、熱心な活動をされた五団体と二十六名の方に表彰状と十三名の方に感謝状が、そしてPTA広報紙コンクールに入賞された六校に表彰状が贈られました。その後、蟹江美子さんから受賞者代表謝辞へと進みました。

議事に入り、令和五年度の事業報告・決算報告・監査報告・承認の後、令和六年度新役員が選出され、退任される先田仁美前会長に佐藤央一新会長より感謝状が贈られました。

次に令和六年度基本方針・活動目標・事業計画、予算案等についての審議が行われ、原案どおり承認の運びとなり、総会を終了しました。

令和六年度 役員

会長 佐藤 央一

副会長 佐藤 誠二 (役員会推薦)

大西 幸枝 (鳴門)

原田 真 (勝浦)

阿部 美紀 (吉野川)

濱田 恵 (役員会推薦)

副会長 近藤 秀樹 (県小学校長会代表)

理事 住村 洋昌 (小松島)

美濃 加奈 (阿南)

濱名 伸悟 (海部)

武田 勝俊 (美馬)

清兼美枝子 (つるぎ)

瀑布川安男 (三好)

阿部 知彦 (名西)

澤井 昭秀 (那賀)

大池 亜紀 (阿波)

井本 友子 (阿南)

先田 仁美 (鳴門)

広報委員長 山本 誠悟(板野)

研修委員長 佐藤 巧(阿波)

総務委員長 佐藤 央一 (役員会推薦)



ブロック別PTA活動紹介

～地域の伝統を守り 未来へつなげよう～

家庭・学校・地域の連携

★次号のブロック別PTA紹介は、名西郡P連、勝浦郡P連、吉野川市P連です。

南部ブロック 阿南市PTA連合会

会長 美濃 加奈

阿南市PTA連合会は、小学校21校、中学校10校で構成しています。市P連の活動については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため自粛もしくは中止を余儀なくされました。しかし、5類に移行されたことを受け、感染症拡大防止に工夫を凝らしながら、本年度から市P連の様々な事業が通常通りに開催されています。

7月、保健体育部会が企画した保護者・子どもの交流のためのスポーツフェスティバルは残念ながら雨天のため中止となりました。早い段階から部会のメンバーが連絡、打ち合わせ、準備をしてくださいました。前日は本部役員も手伝い、グラウンドの白線引きを行ったのを思い出します。蒸し暑い中、ワイワイ声をかけあいながら、万端整えてくれました。保護者だけでなくスポフェスを心待ちにしていた子どもたちもいたと思います。窓の向こうの雨を見ながら、当日中止の判断をするのがつらかったのを思い出します。



8月、家庭教育部会では、「夢みる校長先生」の映画上映会を開催しました。100名程度の来場者を予想していましたが、子どもの参加もあり、それ以上の子育て世代が集まってくださいました。事前の試写会では音響の不具合があり、本番どうなるかと心配しましたが、協力者の対応が素晴らしく、ハウリングすることなく上映会を実施することができました。「映画の内容もとても良かった」と来場者から声をかけていただきました。また、教育長さんも最後まで観ていただきうれしい限りです。



人権教育部会では、阿南市人権教育課の合同現地研修で、香川県の大島青松園に研修旅行に行きました。ハンセン病の後遺症で苦しみ、今も施設で生活をされている方たちから話を聞いてきました。今でもハンセン病の正確な知識がなく、誤解や差別をしている人は多いと思います。現代の医療ではほぼ発症することはないことや発症しても通院し飲み薬のみで治療できる、感染することはないことなど、当事者や関係者の方から話を聞き、この現地研修を通して差別の現実深く学び、人権意識の高揚を図る本当に良かった時間でした。見聞したことを子どもたちに伝えていき、誤解や差別のない、人の心を傷つけることのない社会になるように、家庭から、自分から心がけたいと再認識しました。

11月、健全育成部会では、「トップアスリートに学ぶ生活習慣」の講演会を行いました。ジュニアユースからトップアスリートまでのJリーグ選手やラグビー選手への栄養アドバイスをを行っている管理栄養士から、栄養カウンセリングや食生活の大切さについてのお話を聴きました。バランスのよい食事や朝食・睡眠の重要性を知ること、家族の食習慣を見直し、無理なく続けられるよう心がけていこうと思いました。

少子化にともない阿南市では再編計画が進行中です。加茂谷校区にある吉井小学校が県内で初めて小規模特認校制度を導入することになりました。阿南市内のどこからでも通学ができます。吉井小学校がある加茂谷地区は生物多様に恵まれ自然豊かな谷間にあり、そばを那賀川が流れています。若杉山辰砂採掘遺跡と縄文時代の歴史物が発掘された加茂宮ノ前遺跡があり、歴史的にも興味深い土地柄です。このような特色を生かした学校づくりが進行中です。

阿南市教育委員会はイノベーションスクールとして教育プログラムのプランを打ち出しました。子どもたち自身が考える探求学習や地域の人々とかかわる過程で表現やコミュニケーションを育む「吉井っ子フォーラム」など、子どもまんなかの取組をし、魅力ある学校づくりを進めています。今後の情報をお見逃しなく！

西部ブロック 美馬市PTA連合会

副支部長 小泉 勇太

平素は、徳島県PTA連合会の活動に多大なご理解と、ご協力を賜り誠にありがとうございます。美馬市PTA連合会は、美馬町・脇町・穴吹町・木屋平の4支部で組織されています。美馬市、全人口26,460人、12,528世帯となっております。

さて、PTAとは、子ども達を中心に、周りの大人が連携して、教員としっかり手を取り合い、子ども達の豊かな未来を、子ども達が歩んでいける様、前に進めていく、素晴らしい社会教育活動の団体です。また、保護者同士のコミュニケーションも大変重要であると思います。会員の皆様がPTA活動を通じて互いに理解し合えるようになればと考えています。徳島県PTA連合会は、正会員として公益社団法人日本PTA全国協議会に加入しています。各単位PTAはそれぞれ地区によって工夫し熱心に活動をしています。昨年に続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業など、ほとんどの学校行事・PTA行事が中止や延期になっている状況です。ただ、そのような中でも各単位PTAの行事は、5類移行を踏まえ、感染拡大防止に工夫を凝らしながら実施されるようになってきました。授業参観やPTA総会、運動会や体育祭・文化祭、愛校作業などの学校行事も、徐々にではありますが会員の皆様のご協力を得ながら再開しつつあります。新型コロナウイルスによって生活様式が大きく変化したこの3年間を振り返ると、これまであたりまえだった色々な活動がどれだけ貴重なものだったか、と考えさせられることも多くありました。特に人が集まる機会が少なくなったことでPTA活動も制限され、学校と保護者、また保護者同士が顔を合わせる機会が減ったのは大きかったと思います。誰が先生で誰が保護者なのか、よくわからない、という声を聞いたこともあります。PTA活動に限らず、お互いが顔を合わせ、会話をすることこそ生まれるつながりが、様々な活動の力になっていることも少なくありません。

新型コロナが5類に移行し、社会が「アフターコロナ」に舵を切っていく中、改めてこれからのPTA活動を含めた学校のあり方について地域や保護者、学校が知恵を出し合っていくことがこれまで以上に大事になっていくのだと思います。そして何より、子どもたちの学習への影響についてPTAはもっと関与しなければなりません。教育のデジタル化は良い事ばかりではなく悪い影響もあります。特に子どもの身体への影響については注意が必要です。多くの子どもたちが家庭でもスマートフォンやゲーム機を使い、学校でもタブレットとなると、一日中液晶画面を見続けることになり視力障害の原因となります。インターネットへの依存やトラブル対策も含めて、家庭も学校も、みんなで上手な使い方を考えなくてはなりません。また、タブレットのデジタル教科書だけでは不完全です。近年子どもの「書く力」の低下が心配されて

います。筆圧が弱くなり上手に文字が書けなくなっているというのです。タブレットの使用頻度が増えることで、さらに鉛筆ばなれが進みそうです。書けないことが学力低下の原因になるとも言われていますので、紙に鉛筆で書くという古典的な学習方法もまた重要性を増すことになるでしょう。コロナをきっかけに教育のデジタル化が一気に進みました。教育環境が大きく変化していますが、私たちの理解や対応はまだ追いついていません。しばらくの間は試行錯誤が続くことになるでしょうが、デジタル化は社会全体に及んでいますから、学校の中だけでどうにかする話ではありません。学校と保護者の連携組織であるPTAがこれまで以上に密接に協力して、自治体の教育・情報政策にも積極的に関与していかないと地域全体が遅れをとってしまいます。地方の教育力の低下に拍車をかけることにもなりかねません。子どもたちの教育環境を少しでも良くするために、いま私たちPTAがやらなければならない事に気づく必要があります。

これからの学校と地域の連携・協働の姿として

- ・地域住民と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」への転換
 - ・地域の様々な機関や団体等がネットワーク化を図りながら、学校、家庭及び地域が相互に協力し、地域全体で学びを展開していく「子供も大人も学び合い育ち合う教育体制」の構築
 - ・学校を核とした協働の取組を通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る「学校を核とした地域づくり」の推進
- 以上、取り組むことが大切だと思います。

終わりにになりましたが、地域・保護者・家庭の連携がこれまで以上に大切になっていくことはいまでもありませんし、コロナ禍で希薄になった人と人のつながりを回復していくことも同様です。ただ少子高齢化が進む現在、地域・保護者や学校のそれぞれにとって過度な負担を強いるような活動については再考する必要がありますし、改めて残すべきものは残し、省けるものは省くなど、できるだけ保護者や学校にも無理がない活動を模索していく必要があると思います。そしてすべての子どもの幸せにつながられるよう、持続可能なPTA活動を構築していけるよう、美馬市PTA連合会としてこれからも活動していきたいと思っております。



中部ブロック 板野郡PTA連合会

会長 佐藤 央一

板野郡PTA連合会（当郡PTA連合会）は、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町PTA連合会から構成されている徳島県PTA連合会を構成する中では、一番大所帯のPTA連合会になります。

郡内の単位PTA数（学校数）は、令和6年5月現在で小学校17校（内分校1校含む）、中学校6校の23校（内分校1校含む）となります。児童・生徒数は7,777名（令和6年5月）となります。

当郡PTA連合会は、会長、事務局、副会長、監事、広報、研修の役職で構成されており板野郡におけるPTA発展育成をはかることによって、板野郡教育の振興刷新、児童・生徒の福祉増進を図ることを目的に活動を行なっています。

他の郡市PTA連合会構成とは違い5町それぞれで構成される町PTA連合会で構成されているため、PTA活動の事業主体は各町PTA連合会を中心に活動を行なっています。

当郡PTA連合会活動のスタートは、毎年5月に開催される板野郡PTA連合会総会からはじまります。総会では、前年度を振り返るとともに本年度の活動に活かすことのできる運営協議を行い、1年間の事業予定を会員の皆さまにお伝えしています。近年の当郡PTA連合会での事業について2つご紹介させていただきます。

1つ目は昨年度より、コロナ禍で当郡PTA連合会としての活動が思うようにできなかったことなどの経験から、毎年開催していた当郡PTA連合会研修会を取りやめ、各単位PTAで地域のニーズに合わせた活動を支援



する事業にシフトチェンジしています。今年度は、その事業が2年目を迎えていますが、各単位PTAでの実りある活動へとつながっています。

2つ目は、徳島県PTA連合会発行の機関誌のデジタル配信事業です。当郡PTA連合会の会員の皆さま方は、各町学校から配信されるアプリの登録がほぼ全てのご家庭で行われていることから、年1回発行される機関誌をデジタル配信する事業に取り組んでいます。直ちにとはいきませんが、アンケートや紙媒体での発行の必要性の検討を深めてから来年度にスタートできればと考えています。

役員会の開催は、年間2～3回開催し、各町PTA連合会活動の情報交換を行い連携をはかれるようにしています。

各5町PTA連合会では、広報誌発行、古紙回収やバザー、会員との交流をはかるイベントを通して「交流の場」「学びの場」となる事業が開催されています。

当郡PTA連合会では、単位PTA、町PTA連合会の「交流の場」「学びの場」を今後も提供しながら、昨今のPTA活動の考え方でもある「柔軟な発想」と「多様な関わり方」を取り入れながら進めていきたいと思っています。また、徳島県PTA連合会との連携を通して、児童・生徒が安全に楽しく活動ができるよう環境を整えていくことも進めていきたいと思っています。

次年度も、今年度よりも発展できる活動に進められますよう、当郡PTA連合会としても日々の活動を通して交流や経験したことを活かせる支援をしていきたいと思っています。

子どもたちに身につけさせたい性教育

講師 阿波市立久勝小学校養護教諭

宮根 咲妃 先生



宮根咲妃先生

性教育は必要なのか？

性教育はお互いを傷つけたり、傷つけられたりしないために必要な人権教育の一つである。性教育を小さな子どもの段階から繰り返し学ぶことで将来の性行動が慎重になる。性に関する知識を得ることは、体を理解し、性暴力の被害者にも加害者にも傍観者にしないためにも、とても大切なことである。

学校性教育の今

生活科や理科などで学習する機会もあるが、直接的に保健学習として性教育を学ぶのは小学4年生からである。また、現在の学習指導要領では受精や妊娠までに至るまでの過程を取り扱わないものとされている。

プライベートゾーン(肌着で隠れる部分と口)について

体は全部大切。その中でもプライベートゾーンは、その人の命に直接関わる大切な場所。自分だけの大切な場所だから、どんなに仲が良い友だちでも家族でも勝手に見たり、触ったり、見せたり、触らせたりしてはいけない。危険な目に遭いそうなときは、「嫌」って言うていい。

○体を触る・見る時は相手の同意が必要

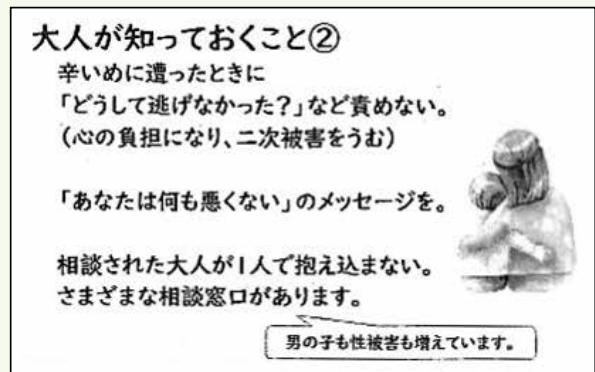
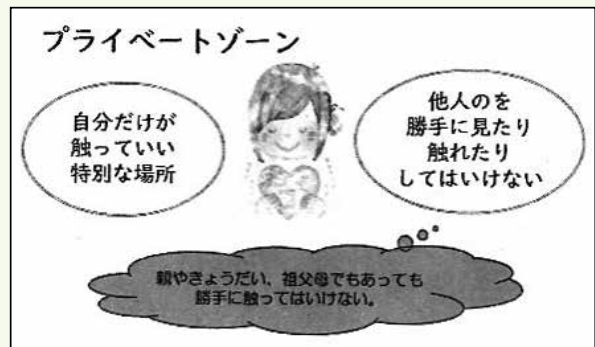
- ・理由があって体に触れる・見る時は、家族であっても、必ず声をかけて、同意をとる。
- ・自分の体は自分で洗う。3歳からは、自分の性器を正しい洗い方で、自分で洗うように練習する。
- ・体の変化がはじまったら、異性の家族との入浴を控える。
- ・思春期になったら、1人になれる空間をつくる。子ども部屋に入るときは、必ず子どもの許可をとる。

○プライベートゾーンに関わる言葉や行動で、人にいやな思いをさせてはいけない

- ・性的な言葉を聞いた人が傷つく。子どもはインターネットから性的な知識を身に着ける。意味が分からなくても子ども同士の間では言っていることがあるが、大人(家庭では)には言わない。フィルタリングでブロックをすることが必要。
- ・「ズボンずらし」「ブラはずし」「スカートめくり」「かんちょー」は性別に関係なく、性的いじめであり、犯罪である。された側は深く心が傷つく。
- ・性や性器は人権そのもの。深刻さを自覚しにくい時期だからこそ、丁寧に伝えることが大切。

○プライベートゾーンの大切さを理解することで、性被害にあった時に「NO」が言える傾向になる

- ・不快な思いや行為があった場合は、「NO(だめ)・GO(にげる・離れる)・TELL(大人に話す)」で自分を守る。



親の立場からできる性教育

早い段階(幼児期)から性教育をする。思春期に入ってから話す場合は、タイミングの良い時に、決して茶化さずに淡々と「あなたの体が大切だから」のメッセージを含めながら伝える。家に性教育の本を置いて、「大切なことが書いてあるから読んでみて」など声をかける。

【関連サイト】

- ・文部科学省 性犯罪・性暴力対策の強化について：生命(いのち)の安全教育
- ・同意とコミュニケーション【同意ってなに?】 - YouTube
- ・Consent for kids(日本語版)からだの権利について - YouTube
- ・Consent - it's simple as tea(日本語版)性的同意について - YouTube

栄えある全国表彰

十一月十五日（金）東京のホテルニューオータニに於いて日本PTA全国協議会表彰式が行われました。本県から県P連前副会長の蟹江美子さん、平岡春香さん、団体表彰で板野南小学校PTAの平尾恭子さん、橘小学校PTAの池添景子さんが出席しました。なお、本県関係の受賞者は次の通りです。心よりお喜び申し上げます。

日本PTA全国協議会

会長表彰・団体

板野町立板野南小PTA
阿南市立橘小学校PTA

日本PTA全国協議会

会長表彰・個人

県P連前副会長 蟹江 美子（撫養小P）
県P連前副会長 平岡 春香（六喰小P）
県P連前副会長 木村 公明（池田中P）
県P連前理事 納田 明豊（高志小P）

「楽しい子育て全国キャンペーン」～家庭で話そう！我が家のルール・家族の絆・命の大切さ～

令和6年度 三行詩コンクール 徳島県優秀作品

一般の部

私の左右の腕は 息子と娘の抱き枕
寝息と共にやってくる ビリビリの正体は
そうか シアワセだったんだ
松島幼稚園 榎本 雅文

「学校に行きたくない」そんな言葉にショックを受けた
でもあなたが目の前で笑ってくれるだけで お母さんは幸せだよ
それに気づかせてくれたあなたに ありがとう
松島小学校 小路 優

「いつてらっしゃい」のぎゅっ
気をつけていつてらっしゃい、楽しんできてね、元気に1日過ごせますように
たくさんのエールがまつてる
松島小学校 清原 友花

家族で入るお風呂 1日のできごとを いろいろ話してくれる子供たち
寝る前には 代わりごうたい 1人ずつ「おやすみなさい」
今日も いい1日だったねえ
松島小学校 小倉 博美

大きめの息子のお腹をなでながら
「何が入っているの？」と問う母に
「夢と希望!!」と誇らしげな顔。
相生小学校 日野 洋子

中学生の部

昔より少し離れた距離感を
あらわにしだす伸びた背だけ
差はひらけど 心は重なり
阿波中学校1年 黒川 呼幸

大きかった父の足
いつの間にか
並んで追いついた
阿波中学校1年 谷西 晴真

柔道着 毎日くさいと文句言う
母の顔は嬉しそう
明日も練習がんばるよ
阿波中学校1年 中岡 円

ブレ更年期のお母さん
いつもちよっとときれぎみだけで
結局、全部してくれる。
私のためにありがとう。
阿波中学校2年 三木 葉月

反抗期 謝りたいと思っても
さらに言い合いになっちゃって
いつかは言いたい「ごめんなさい。」
上勝中学校2年 金石 隆成

小学生の部

大切な きもちは
じぶんで まもろう
学島小学校1年 杉野 優介

ケンカしても
さいごはハグで
なかなおり♡
木頭小学校2年 小杉 芽乃

楽しいことや つらいこと
ささいなことも 家ぞくの会話を
大切に。
海南小学校4年 中島 陸

徳島県PTA連合会

小・中学生総合保障制度
自転車総合保障制度

詳しい内容は
パンフレットを
ご覧になるか
取扱代理店に
お問い合わせ
ください

第72回 日本PTA全国研究大会 川崎大会

全国大会に参加して

阿部 知彦

「ほめ写」と検索してみてください。二日目に登壇した教育評論家の親野智可等さんのセッションはこの言葉ではじまりました。

「ほめ写」とは、写真を活用し子ども達の自己肯定感を高める取組みです。目標に向かって頑張っている姿、何かを達成したときに喜んでる姿など、人は忘れやすい生き物だから、写真を見返すことでその成功体験を思い出すことが大切だそうです。むしろ何でもない笑顔の写真でもいいみたい。家族仲良く笑っている様子を見ることで、絆がもっともっと深まります。

先進諸国の中でも自己肯定感の低い子ども達が多い日本。思い返せば私も自分の子どもを叱ってばかり。無駄な苦労はしてほしくないから、立派に育て欲しいから、ついついあれこれ言ってしまうけど、本当はその存在そのものを認めてあげるべきだよ、と教えられました。みなさんのスマホにも、笑顔

の我が子の写真が眠っていませんか。ぜひ、現像して家じゅういっぱいに飾りましょう！

川崎大会に参加して

阿部 美紀

第七十二回日本PTA全国研究大会が神奈川県川崎市のとどろきアリーナで開催され、「ウェルビーイングの実現を、川崎の地から」活かそう「縁」の力」をテーマに、全国から約三千人のPTA関係者が集い、多彩な研究発表が行われました。

①全国PTAの縁をいかし力強く進める教育環境改善への提言・PTAの真の役割とは。ウエルビーイングな社会教育推進。

②誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて…すべての子どもたちに「生まれてきてくれてありがとう」を届けよう。

③大人が変われば子どもも変わるーウエルビーイングの社会実践・学び保障の政策を社会に根付かせることの大切さ。

④多様性を認め合う心豊かな社会を目指して…違いに気付き

ワクワクする人間関係が活動の力に！

⑤子どもたちと一緒に自己肯定感を高め合う家庭教育の大切さ・子どもたちへの報酬は「ほめること」。もっと親力を発揮しよう！

⑥地域社会に広げるウエルビーイング！住み続けたいまちへ…各ブロック大会等の活動事例から共に学ぼう。

⑦ウエルビーイングを社会に広げることの大切さ・学びを振り返り、今こそ一歩を踏み出す決意の瞬間を楽しもう！

これらの研究発表を通じて、家庭・学校・地域における全国の様々なPTA活動を知ることができました。

PTAの縁から始まる社会のウエルビーイングの実現に向けて、活動の活性化と行動の広がりを感じました。

私たちや子どもたちが学校・地域・行政と協力し、住みやすいまちづくりを進めていくことの重要性を再確認しました。

家庭教育研究会

十二月二十二日(日)徳島県教育会館にて、県P連家庭教育研修会が開催されました。研修に先立ち、日本PTA全国協議会主催三行詩コンクールの表彰式が行われ、受賞された方々に佐藤央一県P連会長から賞状と記念品が贈られました。

研修会は、阿波市立久勝小学校養護教諭 宮根咲妃先生から「子どもたちに身につけさせた「性教育」と題した講演をしていただきました。保護者世代にとっては、学校で教えてもらう機会が少なかった性教育ですが、子どもの身体を守るために学校や家庭で正しく伝える必要があるということや、どのように伝えたら良いかということ教えていただきました。



四国ブロック徳島大会

第五十三回日本PTA四国ブロック研究大会徳島大会が十一月十七日(日)に藍住町総合文化ホールにて開催されました。「未来へ響け！ツナガリの輪！」PTAがあなたのために今できること」を大会スローガンに、鳴門教育大学の葛西真記子先生による基調講演「子どもたちが元気で幸せでいられるために親ができることーいじめや不登校のない学校生活を送れるようにー」、弓削田健介さんの「いのちと夢のコンサート」を通じて、子どもたちを取り巻く環境で生じるさまざまな問題にPTAができることを考えました。



国内研修事業

沖縄研修を通して

鳴門中学校

鈴木 華穂



通して私は、
沖縄研修を
「コミュニ
ケーションの
大切さ」につ

いて学ぶことができました。最初は同学年ということを分かっていたにもかかわらず話すことができず困っていました。ですが、一緒に宿泊したり活動に取り組んだりすることで話す機会が増え他愛のない話ができるようになりました。最終日には、沖縄を離れることが辛く想像以上の思い出ができました。四泊五日間で最高の友達と思いい出ができました。



この事業に参加することができて非常にうれしく思います。沖縄研修の四泊五日間で学校や普段の生活では学べないことを学ぶことができました。沖縄研修に活用していきたいです。最



高で一生涯忘れることのない思い出となりました。

最高に楽しい研修でした！

鳴門中学校

松本 幸樹



つい最近、
中学校で戦
争や、サン
ゴ礁の減少
などを学び

ました。そこで沖縄出身の僕は、もう一度沖縄へ行き具体的にそれらのことについて学ぶことはできないか、また幼いころ見ておけなかった沖縄の景色を目に焼き付けることができなにかと考えました。そのようなことを考えているときに学校の先生からすすめられたのが、この国内研修事業でした。この研修に参加できることとなり、嬉しかったのですが少し不安もありました。

そして迎えた当日、那覇空港



へ行くと高松空港に僕を含め五人集まりました。皆とてもおもしろく気の合う人たちでした。そして糸満青少年の家で百人程度の研修生たちと集まり、一日目からとても楽しいものとなりました。その頃にはもう飛行機に乗る前の不安は一つもありませんでした。二日目には渡嘉敷へと渡り、沖縄青少年交流の家でサンゴ、戦争について話を聞くことができました。その後海洋研修所に行き、その海の美しさに息をのみました。夕方にはエイサーや慶良間太鼓の体験をしました。僕は太鼓を打ち、エイサーを見ました。昔大好きだったエイサーを再び見られて、感動しました。三日目には、スノーケリングやカヌー、カヤックの体験をしました。スノーケリングではサンゴ礁ならではの美しい生態系や景色を眺めることが

できました。カヌー、カヤックでは、仲間と共に呼吸を合わせ、より絆を深めることができました。また、その日のキャンプファイヤーでは、みんなで輪になり歌を歌ったりゲームをしたりととても楽しいものでした。四日目はチャレンジ宣言と共に、皆で最後の夜をすごしました。そして最終日、皆と別れるのがとても寂しいと感じました。



この研修では多くのことを学ぶことができました。僕が学びたいと思ったサンゴ礁や戦争以外にも身に付いたものはたくさんありました。リーダーや引率の先生、一緒にすごした皆。本当にありがとうございます。本県は違えどまたいつか会えると思っています！